

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171300680		
法人名	社会福祉法人 慈恵会		
事業所名	さわやかグループホーム七宗		
所在地	岐阜県加茂郡七宗町川並630-1		
自己評価作成日	平成22年1月31日	評価結果市町村受理日	平成22年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300680&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171300680&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年3月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれ、近隣の方のご好意で山菜摘みや、茶摘をさせていただいている。また、気軽に喫茶が利用できるように、エリア内でボランティアの方が行なっている喫茶に出掛けている。また、一泊旅行を実施するなど、施設に入居した事で、今まで行なっていた事が制限されてしまった(できなくなってしまった)と思う事が一つでもなくなるように、利用者様の支援を行なっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた町内でただ一つのグループホームである。隣接するデイサービスや茶摘みなどを通して地域との交流を行っている。自宅と同じようにホームでも過ごすことができるよう、職員は、利用者の意向や意思を確認し、接している。共有の広い部屋に対面式のキッチンが設置され、お茶の時間や食事の準備等、利用者は自分で行なうことへ積極的に関わり、日々明るく過ごしている。職員の提案で一泊旅行が計画され、利用者・家族に好評であり、今年も昨年以上の家族の参加が見込まれる。エリア長、管理者、職員には信頼関係が築かれており、不満や迷いが無く利用者に接することができる環境である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『自分でできること、自分で選ぶことを大切にすること』という運営理念を事務所に掲示し、毎日の介護の中でどうしたら利用者様にしているだけか、また選んでいただけるかを考えながら行っている。	管理者と職員は「自分でできること、自分で選ぶことを大切にすること」という理念のもと、どのような場面で利用者が自分でできることを進んでできるか、どのような対応が適しているのかを、職員間で日々話し合い支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園との交流、町の図書館の利用、町で開催される生涯学習への作品展示、産業祭や発表会の鑑賞、地元の店を利用したりして、少しでも多くの方と交流が出来るよう心掛けている。	機関誌「ひなたぼっこ」に地域の行事なども記載し、地域の図書館・公民館・学習センター・公共の窓口等に置き、地元住民に活用してもらっている。町で開催される行事には利用者が出かけたり、保育園との交流など地域での日常的な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	出前講座の実施。エリア内で発行している広報誌により、地域の老人会、婦人会、町内会等各種、グループに呼び掛け、健康や福祉、介護について資格を持った職員が出前講座の実施を行なっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様と触れ合う時間(行事への参加、作品制作等)を設け、利用者様の身体・精神状況を知っていただき、その後、サービスの報告を行い意見をいただいている。それを介護に活かしている。	2ヶ月に1回、運営推進会議が開催され、地域の行事や法人からの出前講座の案内、困難事例の検討など幅広い話し合いが行われている。会議開催前にホームの利用者とふれあう時間を設け、実情を理解する機会となっている。	運営推進会議には、地域からは民生委員1名の参加があるが、近所の人などにも参加を呼びかけ、より地域に密着した取り組みが行えるような会議のあり方に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故や入退院、入退居の報告をしたり、役場に出掛けた際には近況を報告している。	運営推進会議だけでなく、常に日頃から連絡を取り、ホームの近況報告も随時行っている。「出前講座」を法人で企画し、行政と連携して地域住民に健康や福祉・介護についての講座を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に係わるマニュアルがある。玄関は見守りが十分に出来ない場合を除いては常に開錠しており、万が一出られた場合でも直ぐに呼び止めるのではなく、見守りをし様子を伺っている。	利用者の人権を大切に、まず、行動を見守り認めること、「拘束はしない」ことが、大原則として職員間で意識づけられている。具体的な例をあげた身体拘束についての研修が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	実践者研修受講者は学んでいる。法人でマニュアルを作成している。虐待と見受けられる行為があれば管理者に報告し、防止に努めている。	/	/

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用しなければならない利用者様はいない。職員は研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い、疑問な点があれば納得がいくよう説明を行なっている。改定の際は家族会で説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時に苦情受付の案内を行なっている。また、面会時に話を伺う事もある。意見等あった場合には職員会議やエリアでの会議で検討し、議事録や申し送りノートに記入し、職員全員周知できるようにしている。	家族の面会や電話での連絡が多く、職員は家族の面会時に要望や意見を聴く時間を必ず作るようにしており、家族も気兼ねなく発言している。意見や提案が運営に活かされることを利用者や家族に周知しており、毎月送る機関誌等でも意見や要望を出してもらおう、毎回連絡している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議での意見交換、意見・提案があれば話し合う時間を設けている。	月1回の職員会議には、全員が参加できるよう勤務を調整し、ホーム内の利用者も参加できる場所で、職員が自分の思いや意見を提案しやすい雰囲気のなか開催されている。全員が理解し納得できるよう、エリア長・管理者は、提案や意見を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度終わりの自己評価も参考にして職員の勤務状況を把握している。また、本人の望む研修に参加できるよう勤務を調整したり、家庭の事情等を考慮して勤務を組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じた法人内の研修に参加したり、一般の研修やセミナー等、興味のあるものについては、参加できるよう勤務の調整を行い、質の高いサービスの提供ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域には同業者が無い為、法人内のグループホーム7箇所ですぐに1回、向上委員会を開催しサービス提供に関する情報交換、勉強会、職員の交換研修を行なっている。また、研修等で知り合った方に話を伺ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様には直接聞き取りを行なう機会を設け、ご家族様からも状況を伺うように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	認知症の症状等を伺い、具体的にどんな事に困っているか話し合う機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞き、利用者様、ご家族様の立場に立って利用者様の「その時」を見極め、何が今一番必要な状況であるのか、見極め、助言、対応している。サービスの利用に当たっては、上司に報告、相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に掃除や洗濯、調理をするうえで、さり気なく昔の話を聞いたり、学んだりして、一方的な介護にならないよう相手の話に耳を傾けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ面会に来てもらうようお願いをし、家族参加の行事を取り入れ一緒に過ごしてもらう時間を設けている。毎月、近況を報告し、本人様の状況を理解していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接するデイサービスを利用している知人との交流や年賀状等のやり取り、また、地域の行事や店等出掛けるようにしている。	隣接するデイサービスは地域の人が利用し、多くの知人との交流の場でもある。馴染みの喫茶店、店での買い物、地域の行事での交流などを支援している。一人ひとりが行う季節の便り等の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	高度の難聴の利用者様には職員が間に入り、他の利用者様との間を取り持っている。また、レクリエーションを行なう時、利用者様同士で誘い合ったり声を掛け合っている。誕生日を皆で祝ったりしてる。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退居後も、必要に応じて利用者様の情報交換をし、また、エリア内の特別養護老人ホームに入居された場合、訪問した際に言葉掛け等心掛けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は個人のケースに記入し、職員全員が把握できるようにしている。思いを伝えられる方に関しては、出来るだけ希望に副える様努めている。伝えられない方に関しては、まだまだ不十分などところがある。	居室担当制で、利用者の意向等の把握ができるよう対応している。確認された利用者の意向等は職員間で共有され、日々の暮らしに反映されている。自分の意思や意向を表現できない利用者の心の内が理解できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の用紙を活用し情報を収集している。本人には日常の会話からも情報を収集し、家族や知人からも収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気付いた事はケースに記録し、状態に変化の見られる方は、常に申し送りを行い職員全員が把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が面会にみえた時に話を伺ったり、本人・家族にもカンファレンスに参加していただいている。	家族の訪問時に本人を含め詳細に聞き取った情報、把握した利用者の心身状態をもとに、居室担当者が介護計画の原案を作成している。原案をもとに、さらに家族や職員の意見を反映し、介護計画を定期的に、また、随時に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録を行い、気づきや工夫は分かり易い様な記入方法になっており、見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わっての受診の付き添いや、利用者様の個人的な外出の送迎を行なっている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本が好きな利用者様には地元の図書館を利用していただいたり、定期的に民生委員の方に来訪していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居まえにかかっていたかかりつけ医がほとんどである。家族の希望で定期的に往診をお願いしている利用者様もみえる。また、緊急時に往診をお願いする時もある。	入居後も在宅時のかかりつけ医に受診している。家族が同行することが原則であるが、家族の事情により、職員が同行する場合もある。体調不良による不定期の受診の際は、症状を文書にし、家族に渡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接するデイサービスセンターの看護師に相談したり診ていただいている。また、担当の保健師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	木沢記念病院の地域連携室の職員と連絡を取り、情報交換をしている。また、直接、利用者様と面会をし、担当看護師に話を伺うこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様の病状の変化には、ご家族様、主治医との連絡を密に取り、今後の対応方針、緊急時の対応を相談。ご家族様と話し合い、利用者様、ご家族様の意思の確認を第一に支援している。また、重度化した場合も、意向を重視し主治医の診断に従い支援する。	重度化や終末期に関しては、入居時に説明し同意を得ている。看取りに限らず医療が必要になった場合は、家族・医師に相談し、適切な関係機関と連携し、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、救命救急講習に参加し、年2回、隣接するデイサービスセンターとの合同の防災訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。運営推進委員の方にも訓練に参加していただいている。消火器の場所の把握。	年2回の消防訓練を行っている。運営推進会議でも、会議出席者の参加のもとに実施した。夜間を想定した訓練も実施し、避難場所、避難誘導など全体的に把握できている。	さらには、地域の協力体制をより強化するため、近隣住民の参加を呼びかけ、防災訓練等が実施されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちになり、不愉快な思いをさせないような言葉掛け、対応に心掛けている。トイレに誘う際には遠くから大声で誘わない、何かに失敗されたらさり気なくフォローしたり等。	人格を認め、誇りやプライドを傷つけないケアが職員に徹底され、寄り添う対応が行われている。本人だけでなく、周りの利用者にも配慮した細やかな対応が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理念にも掲げているように、自己決定する事を大切にしている。思いや希望を表せるよう、また、自己決定できるような言葉掛けに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の身体状況を把握し、個性を大切に、また、本人の意思を確認し支援している。朝が苦手な利用者様にはゆっくり休んでいただいたり、利用者様同士話をしている時には、仕事を頼まないようにしている等。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容室を利用し、毛染めやパーマ等本人の希望で行なっている。お化粧品講座を実施したり、介護計画に化粧品を取り入れたりしている。服装も好みを伺っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の能力に合わせ準備や片付けを利用者様と一緒に進んでいる。エリアの栄養士が作成した献立表を利用者様の好みや希望、旬なものを取り入れ変更したり、行事食や郷土料理を取り入れている。また、お楽しみ昼食会等で職員も利用者様と同じ食事をしている。	利用者と職員は同じテーブルに着き、食事の世話をしている。旬の食材を使い、栄養士の作成した献立表に添い、カロリー計算の行き届いた食事が提供されている。利用者も楽しく準備や片付けをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	エリア内の栄養士に変更した献立表を提出し、栄養バランスをチェックしてもらっている。こまめに水分補給が出来るようお茶の作り置きやポカリスエットを常備している。水分摂取が少ない利用者様には、飲み物の種類を変えたり、時間をおき勧めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行ない、能力に応じた支援をしている。週に1回ポリドントによる義歯の洗浄を行なっている。		

岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄対応し、時間をみて誘導を行っている。また、利用者様が不快にならないよう職員が情報を共有し、同じ対応が出来るようにしている。夜間も、誘導を行い、オムツを使用しなくてもよいように支援している。	職員が利用者全員の排泄パターンを把握しており、個別の誘導や援助を行っている。夜間についても昼間と同じように個別誘導することが職員間で話し合わせ、オムツを利用しない取り組みをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や、朝食に乳製品を取り入れたり、こまめな水分補給に心掛けている。また、日中は体を動かすような支援や、トイレ利用時に腹部マッサージを行なっている。便秘気味の利用者様には主治医に相談し、下剤を使用することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間の入浴の希望を聞き、昼夜、入浴を行っている。昼間の入浴も急がせず ゆったりと入浴出来るよう心掛けている。毎日入浴したい方は毎日出来るようにしている。また、柚子風呂やみかん風呂等、香りを楽しんでいただいている。	入浴は、2日に1回、利用者の希望を聞き、午後と夜間とに分けて職員の勤務を調整して行われている。希望があれば毎日実施したり、個々の希望に添った対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前午後に限らず、本人が希望されれば臥床していただいている。朝、起床できない方については、本人の意思に任せ見守りを行っている。居室の温湿度・明るさ・換気等の調節を行い、不快感を与えないよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケースに処方箋が綴っており、処方箋に変更があった際には申し送りをし、直ぐに新しい情報が得られるようにしている。確実に服薬が出来るよう、職員2人で薬の確認をし、服薬は配って飲み込むまでを確認、チェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前の趣味や仕事、生活ぶりの情報を得、野菜・花を育てたり、調理、掃除等を行っている。本人の希望で本を借りに出掛けたり、ドライブを行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や希望にそって、1日1回でも戸外に出られるよう、気候の良い日は散歩に出掛けたり、買い物、ドライブ、図書館、道の駅等出掛けている。また、知人宅等、個別の希望にも沿える様努めている。	1日に1回はホームから出て外の空気に触れられるよう取り組んでいる。茶摘みの季節には、近所から誘われホームで使う茶を作り、季節に1度の楽しみとなっている。個々の希望に添った買い物、図書館、道の駅、知人宅訪問等の支援も行っている。	



岐阜県 さわやかグループホーム七宗

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホーム事務所にて小額を管理している。スーパーでの買い物では利用者様に支払いをしていただいている。外出の際には個人のお金を持参し自分で支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使用できるようになっている。電話を希望される方には職員が傍で支援し話をしていただいている。また、暑中お見舞いや年賀状を家族や知人に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ばかりではなく、浴室・トイレの温度にも気を付け、不快にならないようにしている。同じような戸ばかりの為、浴室・トイレ、居室を間違えやすい方の戸には大きな字の張り紙をしている。 四季に応じた壁飾りや花を飾って季節感を出している。	天井が高く、明るい空間、落ち着きがあり、居心地の良い雰囲気が作り出されている。壁には、利用者が共に作り上げた作品、行事の写真が飾られている。中央に大きなテーブルがあり、利用者がゆったりと穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にも椅子、ソファを置き、いつでもくつろげる様にしている。また、居間の棚にはいつでも使用できるように本や折り紙、色鉛筆、ボール等の余暇道具が置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物や、今まで本人の部屋に飾ってあった物、大切な物を持ってきていただくようお願いしている。また、居室担当者が利用者様と一緒に作った作品を飾ったりしている。	居室には、使い慣れた大切な物が置かれ、現役時代の表彰状なども飾られ、また、職員と共に作った作品が加えられ、まさに私の部屋となっている。掃き出し窓で開放的であり、押し入れが広く、どの部屋も整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部はバリアフリーになっており、分かりづらい場所には大きな字の張り紙をしている。日付が分かりやすいように大きな日めくりを掲げている。		